

2015年1月23日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086  
神戸市中央区磯上通 7-1-5  
www.lilly.co.jp

EL15-04

## 60歳以上女性骨粗鬆症患者の意識・実態調査

### 骨粗鬆症による骨折経験がある人、半数以上はすぐに骨折気付かず

— 骨粗鬆症による骨折のサイン「背中の曲がり」「背の縮み」「腰痛」に気付かぬ実態 —

**20.0%が「背中の曲がりがあった」、79.0%が「身長が縮んだ」と回答**

**60.8%は「腰痛」があったが、その半数は専門医受診せず**

**受診前に骨粗鬆症を疑っていたのは 14.2%**

日本イーライリリー株式会社(本社:神戸市、代表執行役社長:パトリック・ジョンソン)は、医療施設を受診し骨粗鬆症と診断された60歳以上の女性(以下、60歳以上女性骨粗鬆症患者)515名を対象として、骨粗鬆症に対する意識・実態インターネット調査を実施いたしました。

現在、日本の骨粗鬆症推計患者数は約1,280万人といわれています<sup>※1</sup>。骨粗鬆症患者は骨折リスクがあり、一度骨折すると、次の骨折を引き起こすリスクが高まります。寝たきりの主な要因の一つになることから<sup>※2</sup>、早期発見・治療が重要な疾患といわれています。しかし、自覚症状がなく気づかない場合も多く、実際に治療を受けている患者数は200万人程度にとどまっています<sup>※3</sup>。

日本イーライリリーでは、そうした潜在患者の中でも、特に骨粗鬆症による脆弱性骨折を持ちながら未治療である患者に対して、背中の曲り、背の縮み、腰の痛みなどの症状は、骨粗鬆症による“いつのまにか骨折”であるかもしれないということを認識して頂き、適切な医療施設を訪問し、適切な治療を享受できる確率を高め、患者の健康寿命延伸に貢献することを使命としています。そこで今回、骨粗鬆症患者の受診前の症状への気づきの実態、骨折経験、骨折による寝たきりへの不安意識などを掘り下げ報告することで、疾病啓発の一助とすべく調査をおこないました。なお本調査は、これからの季節の積雪や路面凍結による転倒骨折も踏まえ実施いたしました。

本調査によって、主に次項が明らかになりました。

※1 「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011年版)」より

※2 「平成22年国民生活基礎調査」より

※3 「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011年版)」より

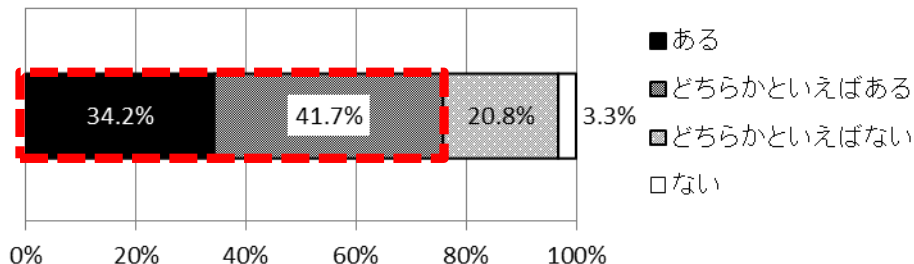
60歳以上女性骨粗鬆症患者 75.9%が「骨折によって寝たきりになってしまうことへ不安」と回答。  
 4人に1人「骨粗鬆症による骨折経験あり」。その内2人に1人「骨折したとすぐに気づかなかった」。

「骨折によって寝たきりになってしまうことへ不安はありますか。」と質問すると、「ある」「どちらかといえばある」と75.9%が回答しました。

一方、実際に「過去に骨粗鬆症による骨折経験がありますか。」と尋ねると、4人に1人(23.8%)に骨折経験があることも判明しました。さらに、骨折経験があると回答した人に対して「初めて骨粗鬆症による骨折をした際、すぐ骨折したと気づきましたか。」と聞くと、2人に1人(56.6%)が骨折に気づかなかったことが分かりました。

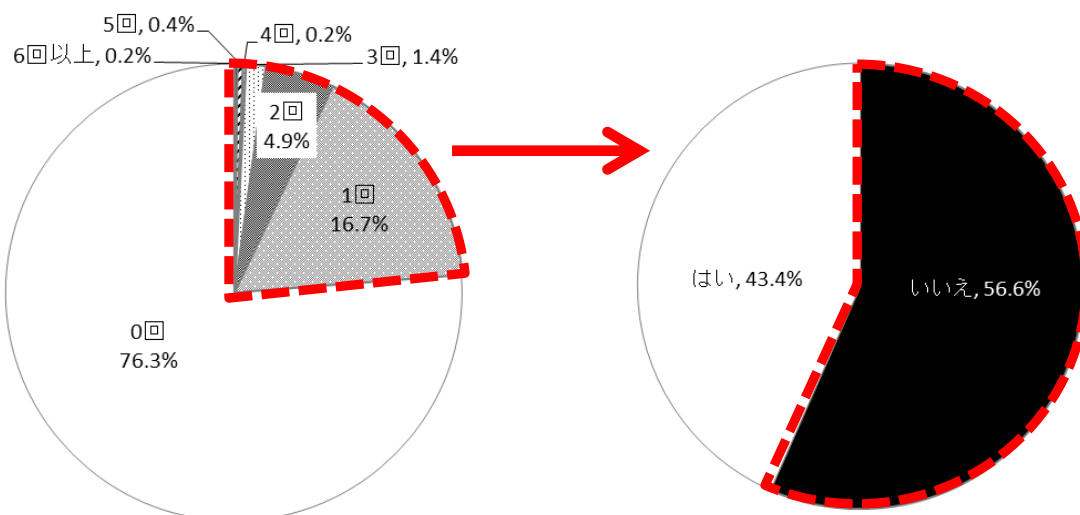
60歳以上女性骨粗鬆症患者の多くが、骨折による寝たきりに不安を抱いているようですが、実際には骨折しても気づかないことが多いようです。

骨折によって寝たきりになってしまうことへ不安はありますか。(SA/n=515名)



過去に骨粗鬆症による骨折経験がありますか。(SA/n=515名)

初めて骨粗鬆症による骨折をした際、すぐ骨折したと気づきましたか。(SA/n=122名)

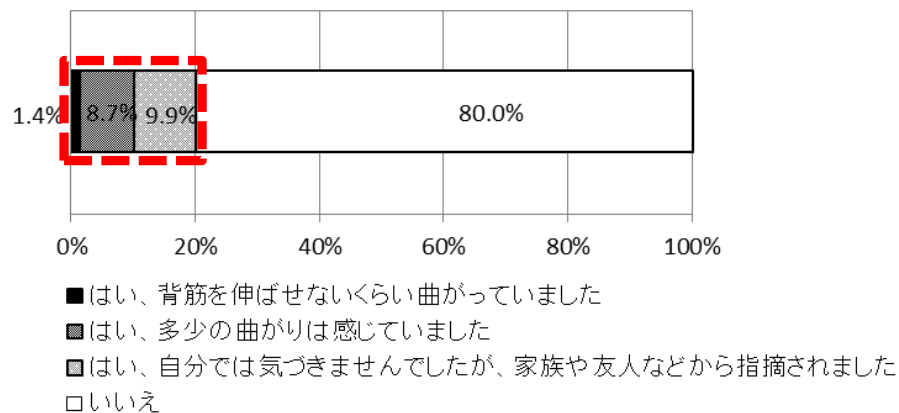


気づかれていない骨粗鬆症による骨折のサイン「背中の曲がり」「背の縮み」「腰痛」—。

60歳以上女性骨粗鬆症患者、20.0%が「背中の曲がりがあった」、79.0%が若いころより「身長が縮んだ」、60.8%が「腰痛があった」と回答。それでも、骨粗鬆症を疑い受診をしたのは14.2%。

「骨粗鬆症で医療機関を受診する前に、背中の曲がりがありましたか？」と質問すると、「あった」と20.0%が答えました。内訳をみると、「はい、背筋を伸ばせないくらい曲がっていました」(1.4%)、「はい、多少の曲がりを感じていました」(8.7%)と、自覚があった場合と、「はい、自分では気づきませんでしたが、家族や友人などから指摘されました」(9.9%)と、自覚はなく、周囲の人の指摘で気づく場合があったこともわかりました。

あなたは、骨粗鬆症で医療機関を受診する前に、背中の曲がりがありましたか。(SA/n=515名)

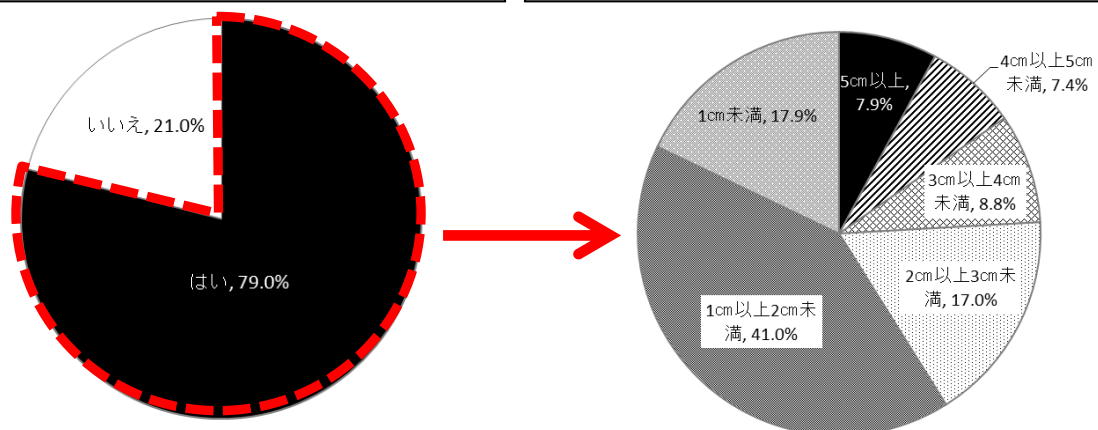


また、「あなたは、若いころと比べ身長が縮みましたか。」と質問すると、「はい」と79.0%が答えました。

さらに「はい」と回答した人への程度縮んだか確認したところ、「1cm未満17.9%」、「1cm以上2cm未満41.0%」、「2cm以上3cm未満17.0%」、「3cm以上4cm未満8.8%」、「4cm以上5cm未満7.4%」、「5cm以上7.9%」でした。

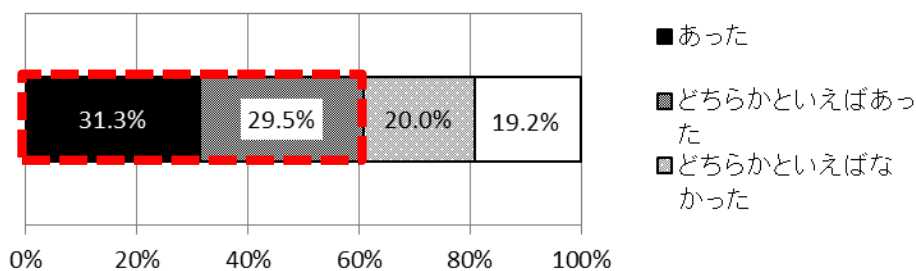
あなたは、若いころと比べ身長が縮みましたか。(SA/n=515名)

若いころと比べおよそどのくらい身長が縮みましたか。(SA/n=407名)

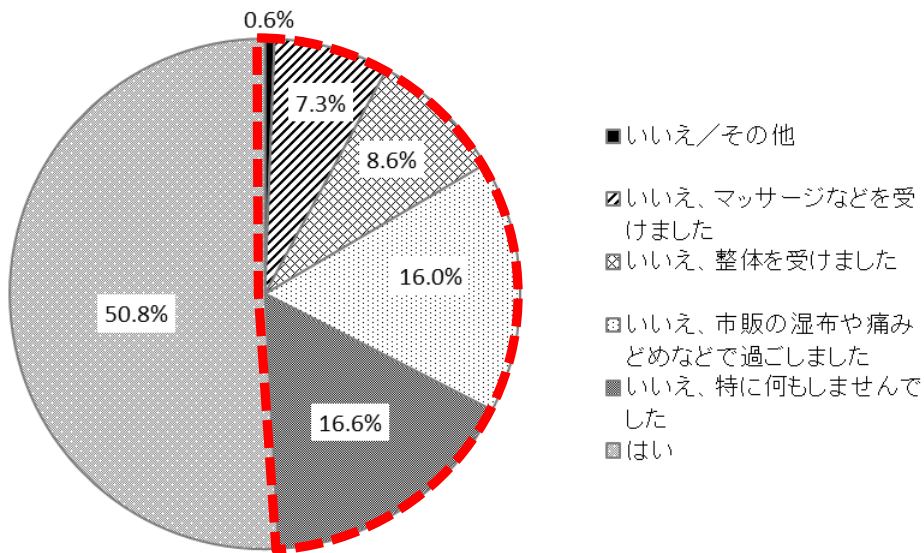


さらに、「骨粗鬆症で医療施設を受診する前に、腰痛がありましたか。」と聞くと、「あった」「どちらかといえばあった」と 60.8%が回答しました。しかし、その内の 2 人に 1 人(49.1%)は、まず整形外科などの専門医を受診しなかったと答えています。60 歳以上女性骨粗鬆症患者の半数が、腰痛があっても、専門医を受診していなかったようです。

あなたは、骨粗鬆症で医療機関を受診する前に、腰痛がありましたか。(SA/n=515 名)



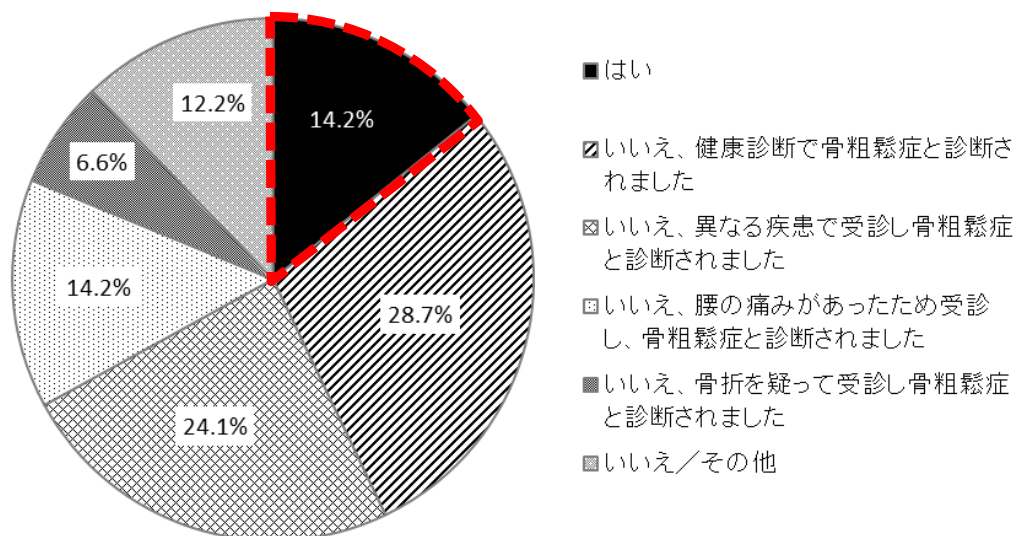
腰痛を感じた時、まず整形外科などの専門医を受診されましたか。(SA/n=313 名)



一方、「医療施設を受診する前から骨粗鬆症を疑い、医療施設を受診されましたか。」と質問すると、「はい」と回答したのはわずか 14.2%でした。

「背中の曲がり」や「背の縮み」、「腰痛」は、もっとも頻度の高い骨粗鬆症性骨折“椎体骨折”の代表的な臨床症状です※4。「背中の曲がり」や「背の縮み」、「腰痛」があると、骨粗鬆症による骨折の可能性が考えられますが、こうしたサインに気付いていない 60 歳以上女性骨粗鬆症患者が多いようです。

医療機関を受診する前から骨粗鬆症を疑い、医療機関を受診されましたか。(SA/n=515 名)



※4「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011年版)」より

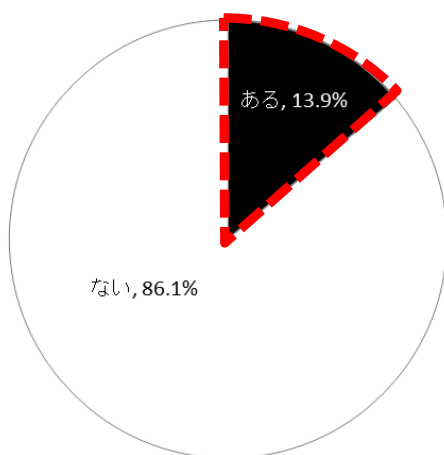
**冬の骨折注意報一。60歳以上女性骨粗鬆症患者の骨折経験ありと回答した7人に1人が、積雪や凍った路面での転倒骨折を経験している。全体の90.2%が、積雪や凍った路面による転倒骨折を怖いと感じている。**

「過去に、積雪や凍った路面、濡れた路面などで転倒したことが原因で、骨折をしたことがありますか。」と質問すると、骨折経験がある人の内、7人に1人(13.9%)が「ある」と回答しました。

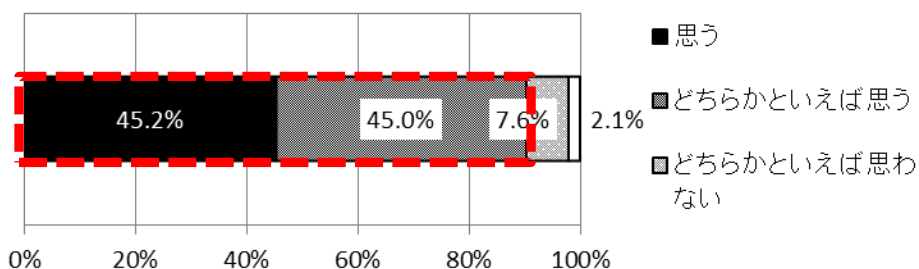
また、全体の90.2%が「これから雪が降り始める冬を迎えますが、積雪や凍った路面、濡れた路面などで転倒することでの骨折を怖いと思いますか。」という問いに、「思う」「どちらかといえば思う」と回答しました。

積雪や寒さで路面が凍る、滑りやすくなるこれからの季節、60歳以上女性骨粗鬆症患者にとって、転倒による骨折にも注意が必要となるようです。

過去に、積雪や凍った路面、濡れた路面などで転倒したことが原因で、骨折をしたことがありますか。  
(SA/n=122名)



これから雪が降り始める冬を迎えますが、積雪や凍った路面、濡れた路面などで転倒することでの骨折を怖いと思いますか。(SA/n=515名)



## 調査概要

□調査日 :2014年12月

□対象 :医療施設を受診し骨粗鬆症と診断された60歳以上の女性515名

□地域 :全国

□調査方法 :インターネットアンケート調査

## 日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立40周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬、高コレステロール血症などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>